

租税教育実践レポート

財政の問題点について

登米市立登米中学校教諭 3学年 中津川 英樹

実施年月日：令和5年1月30日 31名

1 実践計画・指導のねらい

本単元は、国民生活の向上と福祉の向上を図る上で市場の働きにゆだねることが難しい諸問題について、身近な事象を取り上げ、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割を考えさせ、さらに考えを深めるために、統計資料を活用し、根拠を明確に示した説明ができるようにさせたい。学習の展開としては、問題解決的な学習を展開し、予想を立てることを大切に、調べる学習を通して知識の交流が行われ、さらに多面的・多角的な考察へと深まるものとした。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)	資料 ◎評価 (方法)
導入 5	1. 前時の税の種類について復習する。	○ 消費税が値上がりしたら、どう思いますか。 ● たくさんお金を払わなければならないから、いやだ。 *最近の増税案を紹介する。 ○ どうして国民が苦しむ消費税の増税を考えているのか ● 国のお金が足りないから。・歳出が増えているから。・借金がある。・少子高齢化が進んでいる。	資料 ◎評価 (方法) デジタル教科書
展開 35	2. 学習課題に対して予想する。 3. 国の財政について調べる。 4. 地方公共団体の財政について調べる。 5. 国に依存する地方財政の問題について考える。	○ どんな問題があるだろう。予想してみよう。 ● ワークシートに記入し、発表する。学級全体の仮説を立てる。 ・税収入だけでは、国のお金が足りないからだろう。 ・国の借金がある。 ○ 資料1から国の財政にはどんな問題がありますか ※税収入だけでは不足しており、国民からの借金（公債金）で補っていることに注目させる。さらに、歳出の公債金と歳出の国債費を比較させ、返済し切れていないことに気付かせる。 ○ 資料2も関連づけて考えると、どんな問題がありますか。 ※国債依存度の変化と国債残高の変化を読み取らせる。 ● 国債への依存度が近年増加してきている。 ※ノートに記入させる。発表し合い、他人の発表から、自分の読み取りに付け加える。 ○ 地方公共団体（登米市）の財政のバランスはどのようになっているのだろう ※市税、市債だけでなく、国庫支出金、地方交付税交付金に着目させ、理解させる。 ※地方公共団体の財政が、国の財政に依存していることに気付かせる。 ○ 地方公共団体の財政が、国に依存しているとどんな問題があるのだろう。 ● 地方自治が国の財政に影響される。 ● 地方公共団体独自の活動ができない。	資料1 国の歳入と歳出の内訳のグラフ *デジタル教科書 資料2 国債の発行残高と国の歳入に占める国債の依存度のグラフ *デジタル教科書 資料3 登米市の歳入と歳出のグラフ
終結 10	6. 国や地方公共団体の財政の問題点から今後の財政のあり方を考える。	○ 国と地方公共団体の財政の問題点を自分の言葉でまとめ、今後の財政のあり方を考えよう。 ●消費税などの増税を再度行う。 ●地方公共団体の財源を安定させる。 ●歳出を見直す。 ※ ノートに記入させる。班で発表し合う。他人の発表（ノート）から、自分の考えに付け加える。	◎ 国と地方公共団体の財政の問題について、解決策を考えることができる。（ノート）

【指導のポイント】

登米市の歳入と歳出のグラフを活用することで地方財政の課題に気づかせる。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

(租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

◎ 夏休みの課題として「税の作文」に取り組みさせている。今回初めて、入選した生徒にその作文を朗読させてみたところ、クラス全体の単元への取り組みが意欲的になったように感じた。今後も継続していきたい。

◆ 本単元は、難しい資料が多いためデジタル教科書を活用することが多かった。今後はタブレット端末を使っている調べる学習も計画的に行っていきたい。

◆ 消費税については、時間をとってさまざまな立場から考察させることによって課題についての理解を深めることができるのではないかと考える。また同様に、登米市の資料についてはもう少し時間をかけてじっくりと取り組ませるべきであった。